



全学協・総長選号

立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS
〒603-8577
京都市北区等持院北町 56-1
立命館大学学生会館 BOX306
発行人 八木真汰
電話 075-465-8253
info@ritsumeikanunivpress.com

インデックス

学内2
特集3
解説4

紙面より

■総長選推薦委員 2

7月24日に行われた学友会の第12回中央委員会で、秦悠理さん(政策5)が総長候補者推薦委員に選出された。推薦委員の秦さんに、意気込みなどを聞いた。

■公開全学協特集 3

今月、4年ぶりの全学協議会が開催される。構成する各パートで大学側との議論を担う人物に課題や論点、将来に向けた展望について話を聞いた。

■これまでの全学協 4

公開全学協議会は、学生にとって大学に意見を伝える、大学側の政策を確認できる機会となる。長い歴史を持つ全学協のこれまでを、本紙の報道と共に振り返る。

公式SNS

@Rits_Press

@rits_press

海神

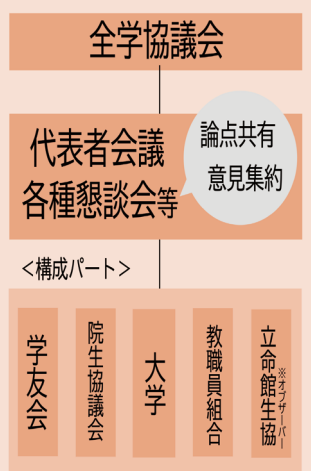
「偶然じゃない。私達は、皆、自分で選んでここにきたの」。これは住野よるさんの小説『君の臓腑を食べたい』の登場人物の言葉だ。人は日々、小さな判断から人生を左右する。あらゆる大きな決断まで、あらゆる全てのことを自分で選び、積み重ねていく。その結果、「今、ここで生きる」という選択を私はしている▼ペルーでは、日系3世のケイコ・フジモリ氏が大統領選の決選投票で当選を果たしたと報じられている。対立候補との差は約0・27%。僅差で上回った。開票には1カ月以上の時間を要したほど大接戦の選挙となった。わずかな差が国の行き先を変えるかもしれない。一人の選択が未来を変えて得ることが示された▼立命館では、4年に1度の総長選が幕を開けた。立命館にとって、この選挙は今後の方向性を決める重要な選択となる。しかし、「自分が投票しても変わらない」「立命館の未来に私たちが関係がない」と感じている人も少なくないだろう▼あらゆる事象は偶然始まったものではない。他人任せにして生まれたものでもない。日常における一人ひとりの選択の連続のなかで、少しずつ形づくられていったものではないか。最終的に選択してきたのは他の誰でもない自分自身なのだ▼ほんの少しの選択であって、立命館、社会、世界の未来を変える力を持っている。だからこそ、「今、総長選に目を向け、関心を持ち続ける」という選択を私たちはする必要があるのではないか。(矢野)

26年度全学協 今月開催 4年ぶり公開で議論へ

2026年度全学協議会(全学協)が今月下旬、4年ぶりに公開で開催される。学友会を含む各パートが懇談会やアンケートで意見集約した論点や学費政策などについて議論される見通し。

〈関連記事3・4面〉(金井、安田)

◆全学協に向けた議論の流れ



選挙人候補者不足目立つ

総長選挙 国関・薬学部は「ゼロ」

総長選挙管理委員会は9月18日、各学部の学部生区分の選挙人候補者を告示した。単記無記名の電子投票によって行われる。選挙人の候補者数は薬学部と国関関係学部は各0人。5学部では選挙人の選出定数を満たさなかった。投票期間は2日午後6時25分まで。情報理工学部や総合心理学部、グローバル教養学部では候補者数は各1人だった。これら5学部の定数は各3人。定数を下回った学部では、不足人数は欠員となる。

一方、定数を上回ったのは生命科学部のみ。定数の3人を超える4人が立候補した。各学部の候補者数は以下の通り。(カッコ内は定数)▼文学部6人(6)▼経済学部・経営学部・産業社会学部・理工学部各5人(各5)▼法学部4人(4)▼生命科学部4人(3)▼政策科学部・映像学部・ス

ポーツ健康科学部・食マネジメント学部・デザイン・アート学部各3人(各3)▼情報理工学部・総合心理学部・グローバル教養学部各1人(各3)▼国際関係学部・薬学部各0人(各0)

候補者の氏名や所信表明、推薦理由は総長選挙に関するホームページから閲覧できる。(金井、八木)

学生大会 文自 学費値上げ反対 全学議論巡り常任に要求

文学部自治会は7月14日、衣笠キャンパス清心館にて学生大会を開き、五者懇談会に関する議案書の採決を行った。議案書には「学費値上げ」への反対が盛り込まれ、賛成多数によって可決された。

議案書の第1議題では、大学の学費施策について取り扱った。今年度の公開全学協議会にて、大学より2027年度以降の入学者に對する学費施策の提起が行われるにあたり、▽学部生



学生大会の様子=7月14日、清心館

の表明——を提起事項とした。アンケートでは「現在の学費の金額についてどのよう感じているか」という質問で、138件の回答のうち、18・8%が「適切ではない」、46・4%が「あまり適切ではない」と答えた。執行委員会の水谷京太郎委員長(文3)はアンケートの結果を踏まえ「学園執行部は学費値上げの理由に、教学や施設の向上を挙げている。しかし、アンケートの回答では、高い学費を負

担しているにもかかわらず、施設改善の不足や学費用途の不透明さを感じる学生が存在し、学生の認識とは明らかにかけ離れている」として、学生への学費の還元と可視化を要求した。

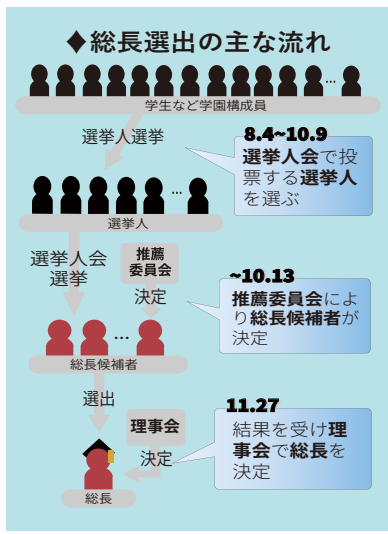
また、大学による学費値上げの提起について「学園執行部がすべきは学費の値上げ提起ではなく、学費をどのように学部生・院生のために使っていくか」ということの提示ではないか」と問いかけ、文学部自治会として明確に反対する姿勢を盛り込んだ。(八木)

そのほか、議案書では学友会の中央常任委員会に対して▽公開全学協議会およびそれに向けた各種懇談会・事務折衝において、学部生にとつての利益を第一に考え、妥協無く議論に臨むことと▽学園共創活動の理念の本質を見失うことなく、あくまで学部生の要求を学園の行動に反映させていくための提示ではないか」という意識をもつて協議を行うこと——の2点を要求する方針を



立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS

時代を
映す、残す、
変える。



推薦委員の秦さん
=本人提供

総長選挙の日程が公表され、選挙規程などを read した。選挙人よりも推薦委員をやりたいと思つてた。そちらの方が、自分のやりたいことをきちんとできる。

7月24日に行われた学友会の第12回中央委員会では、秦悠理さん(政策5)が総長候補者推薦委員に選出された。推薦委員会は理事、評議員、教職員、学生で構成され、総長選における候補者を推薦する役割を持つ。推薦委員の秦さんに、意気込みなどを聞いた。

（聞き手・星野、八木）

「ナラティブ」を整える 秦悠理・総長選挙推薦委員

「学費値上げの議論不足を憂慮」
社説

公開全学協議会では、今後の学費政策が争点の一つとなる。大学側は過去の4年と同様の物価連動での学費値上げを提起し、学友会・院生協議会連合会と共にそれを容認する構えだ。

値上げの必要性やその上り幅、学生生活への影響などが十分に議論されているとは到底思えない。「学費値上げ」を脅かす恐れもある学費値上げを、精緻な議論なしに決定してよいのか。

本学はかつて、他大学と比べ安い学費を目指す学費値上げが続けば、学

「ナラティブ」を整える

幅広い学生に門戸を開いてきた。しかし、近年は学費の値上げを続け、結果として、本学の学費は「関関同立」で比較しても高い水準となっている。諸々の調査が示すのは、高い学費が学生生活と家庭に重くのしかかる現実だ。京都私立大学公費助成推進協議会が実施した25年度調査によると、納付金の負担が「重い」と回答した家庭は約95%にも上る。そのような状況で学費値上げが続けば、学

生生活に大きく影を落とすことになるのは必至だ。学費値上げの必要性にも大きな疑問がある。物価が高騰し、また私学助成などの公的支援も十分でない中で、学費値上げが必要となる場面もある

ろうか。日本が1979年に批准した国際人権規約は、高等教育への平等な機会を求め、その手段として漸進的な教育の無償化を明記している。教育の無償化は、国際的な責務だ。学費の値上げは、こうした流れに逆行する愚行だ。一方で、個々の大学の努力だけでは限界があるのも事実だ。公的助成のさらなる拡大が必要だ。低い負担、高い質で提供する教育を目指すべきだ。学生の学びの権利を保障しつづけるため、学費値上げに説明を求める。

さるのではないかと思つたからだ。選挙人と推薦委員では役割が違う。最終的に総長候補者をジャッジするのは選挙人だ。一方、推薦委員は、総長候補者同士の競争、その「戦い方」そのものに影響を与えることができる。

これから総長候補となる人たちは、学生をはじめとする学園の構成員が何を望んでいるのか、逆に何を望んでいないのかを考えながら、自らの主張や立場をつくっていくことになる。その過程で、学生の立場からさまざまな情報や「ナラティブ(物語)」を整える。それが、推薦委員として自分がやりたいことだ。

推薦委員会の中できちんとチェックしたい。何か問題がありそうであれば発言する。そうやって、より民主的な結果につながるよう努力したい。

推薦委員会の中できちんとチェックしたい。何か問題がありそうであれば発言する。そうやって、より民主的な結果につながるよう努力したい。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

「発想力豊かに」
オーキャン開催

学友会が主催する「発想力豊かに」のオーキャンが、10月2日(金)に開催された。来場者は約3,400人。会場は、学友会館の2階。会場には、学友会館の2階。

立命眼

公開全学協議会に向けて

今月、4年ぶりの公開で全学協議会が開催される。全学協を構成する各パートにおいて大学側との議論を担う人物に議論の状況や課題、公開全学協での論点、立命館の将来に向けた展望について話を聞いた。
〈本文記事1面〉(聞き手・八木、星野、矢野、松山)

総括の軸は学園共創活動



やまもと・ひじり 立命館
大学学友会・学園振興委員長。
文学部3回生。

学友会 山本聖 学園振興委員長

■4年間を振り返って

現在、総括の検討段階ではあるが、これまでの4年間は「学園共創活動」が大きな軸になってくると思う。3年前に要求実現運動から学園共創活動へと転換し、学生自治の在り方が時代とともに変わったと受け取れる。

転換によって新たな姿勢になったが、目的が変わったのではなく、目的はそのまま新たな手段を手に入れたと受け止めている。

■学園共創活動のこれまで
学園共創活動によって大学との関係を構築できたことが大きい。それによって学友会が大学側と対話の場を設けていく機会が増えた。同じ目的でありながらより効果的な手段を得たことが一番の成果だと思う。

また近年、学園共創活動が学友会だけのものではなく、院生協議会連合会も含め複数パートで共有されてきている。そうしたなかで院協とは唯一、学生という立場で共有できる部分がある。それ

■正課と課外+キャリア

院生の質と量に議論の重点を

■4年間を振り返って

論点は主に代表者会議の見解文書を軸として、具

体化する側面と抽象化してより大きなテーマとする側面がある。トピックとして

は正課と課外の二元論ではなく新たな捉え方をすることがあり、それに加えて今年度は就職活動などを含むキャリアという存在に感じるながら学生の将来につ

■次期総長への期待

学友会としては、総長選により多くの人が関心を持って関与した上で、次の総長が決まればと思う。

仲谷総長が任期中に取り組んだ施策は学友会から大学に伝えていた課題に対して長期的な目線で解決につながるものが多かった。学園振興委員長の立場として、

■公開全学協に向けて

今回の公開全学協は学園共創活動に転換して初めて迎えるという点で大きな起点となる。これまで積み重ねた成果と今年度の学友会活動で培ったものを融合させて臨む。学部生の皆さんには全学協が全学部生に関わるものと捉えていただき、

多くの人に見てもらいたい。公開全学協に向けての周知は、秋学期が開講してから公開全学協までの間で、

■総長選への期待

この4年間で活動の幅が段々と広がってきた感覚はある。2024年度あたりから大学側との各種懇談会にも院協が以前より積極的に

関わるようになり活動のレベルが上がったと捉えている。さらに活動を広げ、25年度には全キャンパス合同研究交流会を実施するなど4年の中で活動が少しずつ

議論の経過や内容、問題意識をできるだけ多くの学部生に伝えていきたい。学生

自治という言葉だけで伝わるものが少なくなっている。間においても、1年単位で急に変わっていくことが予測される。学友会としてはこうした急速な変化をしっかりと

学費値上げ必要性に疑問

■前半期の総括不十分

組合としてこの4年間に對する評価は特になく、改善している。それにもかかわらず、それをどう生

だ、今回の公開全学協議会に向けた文章を読んでも、R2030前半期の総括は不十分だと思う。「次世代研究大学」「次世代探究学園」というスローガンははつきり



きぬかわ・ひろとし 立命館大学教職員組合・副委員長。経営学部教授。は日中文学交流史。

教職員組合

絹川浩敏 副委員長

■今後に向けた展望

捉え、過年度における残存課題に対処しながら、その変化のなかで生まれてきた新しい課題にも向き合っていくかなければならない。そのなかで学

生規模も収入も増えている中で、それをどう活用するかという視点が弱いと感じている。

■学費値上げ必要性に疑問

大学としては黒字で、教育活動収支もほぼトントンという水準まで来ている。その中で、どれだけ学費値上げの必要性があるのか。説明は「物価」と「教育の質向上」と言われるだけで

不十分だ。学費が高いと、お金のない人は学べなくなる。学ぶ権利を保障するためにも、学園としてギリギリの努力をすべきだというのが基本的にはあった。私学も公教育であり、私学助成を増や

い人は学べなくなる。学ぶ権利を保障するためにも、学園としてギリギリの努力をすべきだというのが基本的にはあった。私学も公教育であり、私学助成を増や

■立命館民主主義の根幹

総長選は全学の一パートであるという立場から積極的に関わっていく。公正、公平な総長選を求める姿勢だ。総長選は本当に「立命館民主主義の根幹」だと思う。各パートから選挙人が選ばれ、選挙をしていく。

今後、18歳人口が激減する時代に大学教育をしていく中で、学園のビジョンや戦略の議論に当事者意識を持って参加し、総長候補がどういうビジョンを持っているのか、きっちり見ていかなければならない。

前回は本当に失敗した総長選だったと思うし、その一端は我々組合にもある。3人の候補者が推薦されたが2人は辞退し、現総長のみが公開討論会に参加した。事前了解制度がないことなど、制度的な改正は必要ではないかと思う。

■教育の質を重視して

学園憲章の議論でも、当初は「第2次世界大戦の痛苦の体験」など、平和と民主主義を支えるキーワードが削られる案が出た。いろいろな側面から「それでは

立命館が立命館でなくなる」と声が上がりが、現在の憲章に改められた。この意味は大きい。立命館の理念を守っていける人たちに指導部についてほしい。その中で全学協の議論と総長選を見ていきたい。

新たな挑戦を続けていくことは立命館らしさの一つだと思う。ただ、それが量的拡大なのかという点には疑問がある。少子化に対応し、拡大路線ではなく、しっかりと教育の質を充実させることが必要だと考えている。

今の執行部の考え方は「こうしたい、そのためにこれが必要だ」というものだが、現状分析が十分ではない。「これからこういうことが必要だから、こうあらねばならない」というところから始まっている。社会には変わるものと変わらないものがある。その変わらない部分が抜け落ちてしまっているのではないかと危惧している。

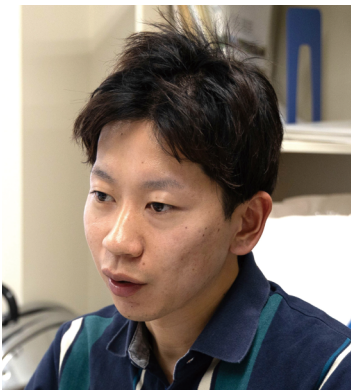
大学における自治は非常に大切だ。学生自治でも、上が言っていることをまづ疑い、現場の意見を集め、話し合いで物事を変えていく。そうやって民主主義を学び、世の中を変えるプロセスを経験することが自治であり、学友会の存在意義であると思う。

べきことが追いついていないところがあるのではないかと。く吸い上げるとい意味で、今後も継続的に実りあるもう一度アンケートを実施議論を深め、本当の意味でするなとして主軸を決める。立命館の発展に寄与する案をさまざまなステークホルダー(利害関係者)と共に模索していきたい。

■公開全学協に向けて

院生の質と量についてや、大学側からの考え方も聞きたい。経済的な問題に関しては学内での雇用を増やすなど、お互いにとってのウィンウィンなところを探り合

院生協議会連合会 岡田雅哉 会長



おかだ・まさや 立命館
大学院生協議会連合会・会長。政策科学研究科・D1。

る。入学から大学院を卒業するまで見届けるといので苦しい。「経済的な部分が大学の教育機関としての対する施策や援助が欲しい」というような声が院協に上

「もっと施設や研究環境を整増加に対し、大学側のやるなり得るだろう。公開全学

